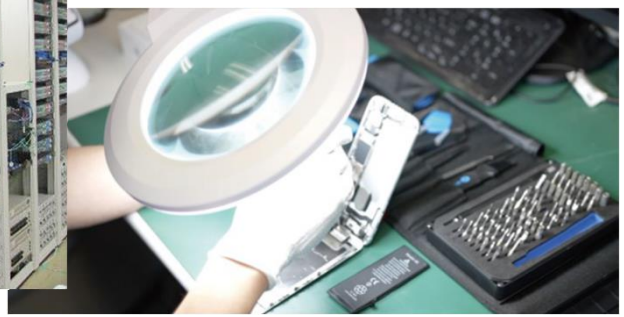
情報処理技術者
エリア別選考採用

培った情報処理技術と知識で
国民生活・社会経済の安全・安心を支える



情報処理技術をキャリアの軸とした プロフェッショナル人材に

警察には、技術革新や、日常生活・経済活動へのサイバー空間の浸透に的確に対応するため、警察活動への技術的な支援等を専門に行う情報通信部門が設置されており、サイバー事案の対処、デジタル化の推進、通信の確保といった専門領域で多くの職員が活躍しています。

情報処理技術者の主な活躍のフィールド

犯罪捜査における技術的支援・サイバー事案への対応

犯罪に悪用されたスマートフォンなど多種多様な電子機器から、犯罪の真相解明の糸口となる情報を抽出して証拠化するための解析を行います。また、都道府県警察に対し、捜索・差押えの現場で技術的な指導を行っています。

また、サイバー空間を悪用した犯罪の検挙・未然防止・拡大防止を推進しています。例えば、攻撃に悪用された不正プログラムを解析する、システムのぜい弱性を調査・分析するといった、捜査における技術的な支援を実施するとともに被害の未然防止・拡大防止の取組として、企業への情報提供や共同訓練の実施などを行っています。

情報ネットワークシステム等の情報通信基盤の構築・運用

第一線警察活動や警察行政を支える警察情報ネットワークシステムを全国的に構築・運用・管理しています。

警察庁のデジタル部門においては、第一線の現場の声をもとに警察情報システムの高度化・効率化に取り組む機会もあります。

採用機関

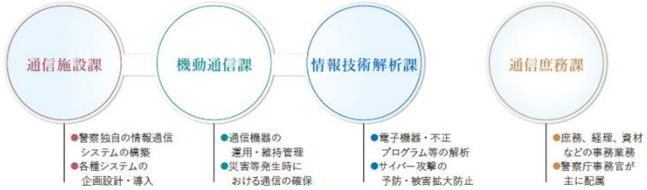
採用機関

採用は、全国に９つある警察庁の地方機関（右図）ごとに実施します。

各地方機関に設置された府県（方面）情報通信部が、犯罪捜査、事案対処、警備活動等の現場活動への技術的支援の最前線となります。

基本的に採用された地方機関内で勤務します。

警察庁は、主に東京に所在する内部部局のほか、附属機関、全国各地域の地方機関で構成されています。



キャリアパス

採用直後は、**サイバー事案への技術的な対処**等を所掌する都道府県情報通信部の**情報技術解析課**に配置されます。本人の希望や適性に応じて、サイバー分野のほか、デジタル分野や情報ネットワークシステムの運用といった業務に従事するなどして、情報処理技術に係る専門人材としてのキャリアアップを図ります。

働き方

採用時教養等

採用後は**警察大学校等に入校**し、警察業務、法令のほか、情報通信部門での勤務に必要な知識・技能を学ぶことができます。

勤務の中で、**国内・外国留学、高度な民間研修の受講機会**があります。

勤務地

管区警察局県情報通信部（各県警察本部内）において自身の知識・技能をいかせる業務に従事し、専門性をかん養していきます。

また、能力や適性を踏まえ、**警察庁本庁、他省庁、都道府県警察等で勤務する機会**もあります。

ワークライフバランス

育児休業、男性職員の育児参加休暇等の育児と仕事の両立支援制度のほか、**勤務時間変更制度（早出遅出勤務）、テレワーク活用制度**等の柔軟な働き方を実現する様々な制度が整備されています。

採用情報

採用機関　：　警察庁地方機関

申込期間　：　令和７年５月８日（木）～
（申込期間は各採用機関により異なります。採用案内をご確認ください）

受験資格　：　情報処理安全確保支援士試験、情報処理技術者試験（高度試験又は応用情報技術者試験）のいずれかの合格者等（※１）（※２）

選考方法　：　論文試験、人物試験等

採用時勤務地　：　採用後は採用された管区内の県情報通信部に配置（初期配置は情報技術解析課）

採用予定数　：　若干名

採用時官職　：　警察庁技官（国家公務員一般職係員級）

（※１）応募までに実施された試験について合格見込みの者も含みますが、合格に至らなかった場合は採用できません。
（※２）情報処理安全確保支援士試験においては、合格した者その他これと同等以上の能力を有すると認められる者も含みます。（情報処理の促進に関する法律（昭和45年法律第90号）第７条））